

鎌形八幡神社 (埼玉県比企郡嵐山町 所在)

ここが鎌形八幡神社





鎌形八幡神社

ふるさと歩道案内図

比企丘陵縦断コース







郷社 八幡神社とある



嵐山町指定文化財の懸仏が2枚保存されているとのこと





鎌形八幡神社

鎌形八幡神社は、平安時代初期、延暦年間、坂上田村麻呂が九州の宇佐八幡宮の御霊をここに迎えて祀ったのが始まりであると言われ、源頼朝及び尼御前の信仰ことのほか厚く縁起の中にもある。

源義賢、義仲、義高三代に関する伝説がこの地には多く、源氏の氏神として仰がれていたという。

また、嵐山町指定文化財である懸仏が二枚保存されている。

安元二年（一、一七六年）の銘がある懸仏は、径十八センチメートルで、中央に阿彌陀座像が鑄出されていて、「奉納八幡宮宝前、安元二、天八月之吉、清水冠者源義高」と陰刻されている。（但し、源義高は安元二年には生まれていない。）もう一つの貞和四年（一、三〇八年）の銘がある懸仏は、径十七センチメートルで、薬師座像が鑄出されていて、「洪河間坊、貞和二、七月日、兼泰」と刻まれている。

その他、水曾義仲産湯の清水や、徳川幕府歴代將軍の御朱印状などの多数の文書がある。

埼玉県

昭和五十五年三月



正面前方が社殿



社殿の建っている場所は古墳なのか？



この水屋の部分が木曾義仲産湯の清水があるところ







木曾義仲産湯清水とある





境内社





さて、これが拝殿/本殿の覆屋となっており本殿はこの中にある









嵐山町指定
建造物

鎌形八幡神社本殿

指定 昭和六十年十二月一日

所在 嵐山町大字鎌形八幡神社

時代 江戸時代

正面の建物は拝殿を兼ねた覆屋であり、本殿は
その中に納められている。

本殿は、簡素な一間社流造りで、装飾的な彫刻
は、正面扉両脇・脇障子・墓股・向拝木鼻・向拝
墓股などに限られている。彩色もこの彫刻部分に
のみ施されている。

本殿の建立年代は、棟札に「奉再建立正八幡宮
御神殿于時寛延二己巳曆三月朔日遷宮」とあり、
寛延二年（一七四九）である。しかし、新材がか
なり含まれ、何度かの修理を経ているものと考え
られる。いっぽう、身舎部分に付けられた墓股、
頭貫の木鼻などの形状は、簡素な整ったものであ
り、古式を踏襲したものか、あるいは棟札の年代
よりもさらに古いものではないかと思われる。

昭和六十二年三月

嵐山町教育委員会







付属の社の覆屋



お決まりの転用材置き場



境内の近くにはこんな社もあった



境内入り口付近と調査隊の車







参考ホームページ

<http://www.asahi-net.or.jp/~ab9t-vmh/kakuchi/ranzan01/kamagata.html>